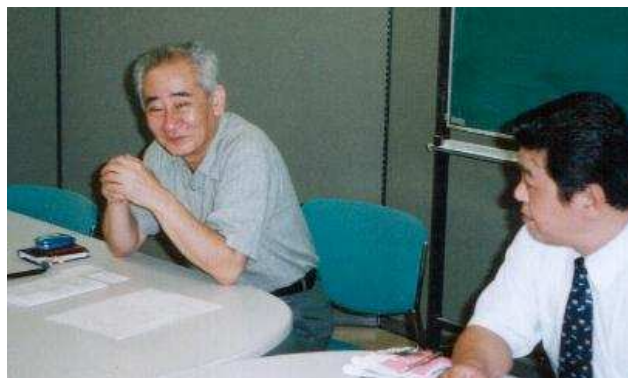


橋先生を偲んで

紀北分会の顧問であり、また、教育相談などで会員の多くがお世話になった橋英彌先生が昨年天国に旅立たれました。支援センター設置に向け奔走して下さっていた矢先でした。

県支部事務局の石橋さんに、先生の思い出を寄せていただきました。

石橋智恵子



和歌山大学にて
右は、大久保支部長

初めて和歌山大学教育学部の橋先生の部屋を訪れたのは奈津子が1歳と10ヶ月の頃でした。それからお世話になっていますが、ここ10年間はメールで色々な話を聞いてもらっていました。奈津子のことは勿論、分会の事務局長をしていた頃は分会運営のこと、自分自身のこと等ありとあらゆる内容です。橋先生から届く返事に慌てたり、ハッとしたりすることもありました。

奈津子が養護学校の高等部を卒業した時、将来の不安ばかりを書き連ねた私からのメールに届いた返事は『おめでとうございます。小生は、なっちゃんが成長したことを嬉しく思います。』でした。叱られた様な気持ちになりました。素直に子供の成長を喜ぶ心を持ちなさいと諭されているようでした。

最後のメールは先生がボランティアでアドバイザーを引受けて下さった自閉症・発達障害支援センター設置に向けた情報交換会の打ち合わせの内容でした。橋先生の存在がなければ、情報交換会も発足していなかったでしょうし、来年度に開設される予定までたどり着けていなかったのかも知れません。公私で大変お世話になりました。

でも、私は橋先生が苦手でした。何故だか先生には私の弱い部分を話してしまいます。話しながら涙ぐんだこともありました。先生の穏やかな笑顔は全て解って包み込んでくださっているように感じていました。

随分と甘えて、頼らせていただいていたいました。橋先生に代わる存在はなく、今、困っています。

事務局からの お知らせ

2004年の分会活動も無事終わろうとしています。皆さま、ご協力ありがとうございました。もうすぐ4月！・・入園・入学・入所等で所属が新しくなる方は、お手数ですが、事務局までご連絡をお願いします m(_)_m

(事務局) 辻野 知津

編集後記： またまた発行が遅れ、すみません。あ～あ、どなたか「早くやれ！」と急かしてくれる役のスタッフになってもらえないかな？ 腰がなかなか上がらない、おしゃべりが止まらない、手が進まない・・・(^_^;)ポリポリ 特に、歯科医の小畑先生には半年以上も前に原稿を仕上げてくださいましたにもかかわらず、本当に申し訳ありませんでした。次回は分会総会時発行を目指します！（一応...）

編集スタッフ： 湊津田弘美 凱藤原昌子 効辻野知津 階佐々木峰子 碍植野比呂美

《発行》イコラ編集局（連絡先）植野比呂美

＊ イコラ 6のWeb版も出しています。絵や写真などカラーで見られるので、ぜひごらんになってください。また、創刊号からのバックナンバーも（残念ながら初期の号は、ほとんど白黒ですが）入れています。